昭和63年10月１日発行

J.P.C

No.40

第8回JPCサマーキャンプ

Body Vibration Action 1(ichi) Vol.8

8回目を迎えて物凄いパワーが渦巻いた今年のサマーキャンプは参加者12名、うち男性たった2名のウーマン・パワー、最年少中学3年生(15歳)、最年長21歳、平均年齢18歳位のヤング・パワーで4泊5日を駆け抜けた。時は8月22日～27日、所はお馴染み民宿「流石」。つむじ風の中に音も無く現われたような太極拳の大御所、楊名時(ようめいじ)先生は御年6？歳のゲスト。チーフインストラクター有賀誠門先生(東京芸術大学助教授他)、サブインストラクター藤本隆文先生(パーカッショングループ'72他)、同じく伊達弦先生(コンガ・プレイヤー)の顔合わせでスタッフ陣も負けてはいない。

とにかく体をリラックス

今回は全体的にハードな運動はなく、ごく自然な力の配分に重点を置いたように思う。

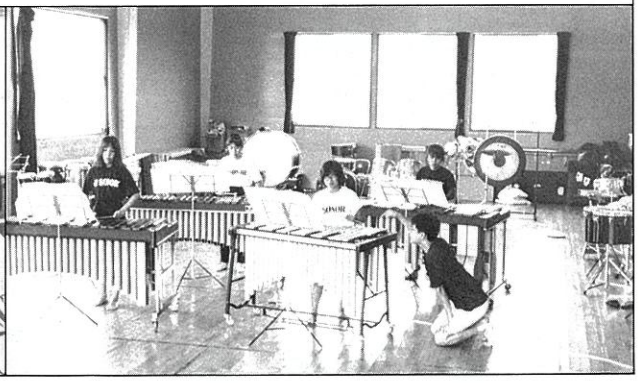
まず仰向けに寝て力を抜き体を静かに揺らす。自分の体が水袋みたいに感じられるようになると本当に力が抜けていることになる。前後左右何でも良い。力が抜けてくると体がフニャフニャ動いて、首もフラフラ動き出す。自分で腕をゆっくり上げてみて、とても重いと感じれば腕の力は抜けている。足も同じ。2人組になってもう一人に持ち上げてもらうと良い。それから膝を立てて腰を上げる。床からパッと腰が離れるのではなく、イヤイヤ離れるような感じ。力が抜けているとそんな感じになるはずだ。そして徐々に早くしていく。そこで力が入ってしまわないように気を付けなければいけない。力が入ってしまうとドスン、ドスンと音がしてしまうから自分の腰が床に触れた時の音を目安にすると良い。これができると、プレイする時にビートが良い意味での前ノリになる。勿論演奏しながら腰を動かすわけにはいかないだろうから、その感覚をしっかり感じながらプレイできれば良いと思う。

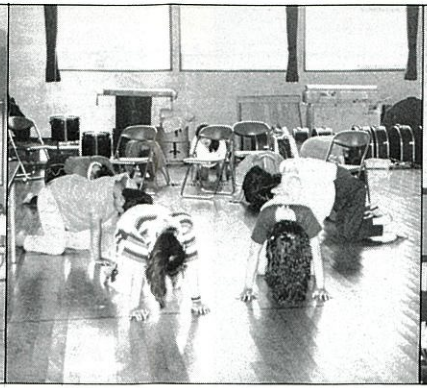
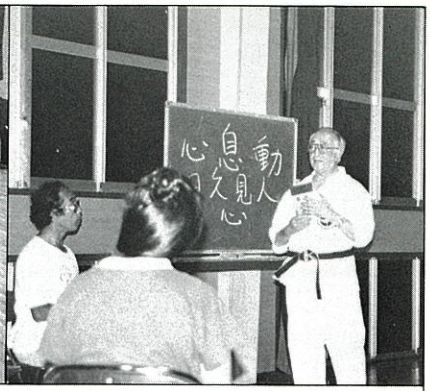
腰の次は足。前回のキャンプまでは、椅子に腰掛けて両足を床から蹴り上げる、馬に乗ってパッカ、パッカ、というイメージの運動をしていたが、今回はそれを寝たまま行った。仰向けになって足を床から離し、うずくまるようにする(手は広げて床につけたまま)。次に足を真っ直ぐに伸ばす(床からは離れたまま)。これの繰り返し。次に足を交互に動かす。まるで思いっ切りスキップをしてるみたいだ。余計な力があちこちに入っていなければ、スキップしてる時に上半身も左右に揺れるし、首も左右に動く。立ち上がってこの運動をするのは至難の技だしあちこちの骨がゴキゴキいってしまうだろうから、こちらも前の腰と同様、この感覚をしっかり叩き込んでステップ踏めば良い。3拍子をRLR、LRLと踏んだり5拍子を踏んだり……これは別記の『マイケル・ユダウ氏クリニック』で使われた$\frac{7}{8}$拍子のリズム練習と通じるものがあるので、そちらも伴わせて試してみると良いかもしれない。

足、腰と自由に操れるようになったら次はパワーだ。スネアドラムを出して来て思い切り叩きまくるのも手だが、体の内からバンッ！と出るものも必要だ。四這いになって「ワン！」と吠えるお馴染みのパターン。毎年思うが、これが一番やりにくそうだ。というのは、ちっとも難しくない反面、最初に「ワン！」と誰が吠えるか、秘かな探り合いがあるからだ。ひと度誰かが口火を切れば、忽ちそこは犬の溜り場になるのだが……。この会報を読みながら人前で「何何……四這いになって……フムフム、こうして……ワンッ！」とできる人には思わず拍手を送るところだが、チャンスがあれば、是非吠えてもらいたい。気持ちも良い。

四這いになって体の力を抜くと、ライオンやヒョウみたいに肩甲骨が盛り上がり、お腹がグッと下に沈む。首の力も抜いてダラリとさせ、用意が出来たらお腹の底から「ワンッ！」と吠える。同時に頭もグンと持ち上がり体も一瞬緊張する。その後すぐに脱力。もとの状態に戻る。0と100の両極を知る良い練習だ。

この様にして体が充分にリラックスして来たら楽器を並べてアンサンブルに入っていく。



中国四千年の歴史を楊先生に見る

鑑真和上を尊敬し、人と人との出会をとても大切にしている楊名時先生は、29年前日本で太極拳を教え始めた。太極拳というと、よくテレビで映しているあの姿を想像するが、他にも沢山の型があるそうだ。楊先生は世界中の人達に対して、そして自分自身に対しても健康と平和を祈りながら太極拳を広めている。

『健康だ』というのは、いつも心が平静で、体も自由に動かせるという２大要素が必要だ。その心と体をつなぐものに呼吸があって、呼吸が正しく行なわれないと、どこかが故障してくる。古来中国では「治病須養気」（病を治すには気を養うべし）、「養気須調息」（気を養うには呼吸を整えるべし）と言うほど息を吐いて（呼）吸うことに重きを置いている。呼吸で大切なのは吐くほうで、大きな声を出すとかおしゃべりをする等というのも息を吐く＝呼となる。動物は死ぬ時、大きく息を吸ってから死ぬのだそうだ。極端にいえば生きるために息を吐いていると考えても良いのだろうか。

私達が教わった型では、息を吐く時は吸う時の倍時間をかけるように、と言われた。とても難しくて思わずカンニング・ブレスをしてしまうが、それでも息を吐き終った後は体の力が抜け、気持ちも隠かになってとても気持ちが良い。

「一日のストレスはその日のうちに吐いてしまいましょう。」とゆったりした日本語でお話ししてくれた楊先生は大河を思わせるような方だった。

張り切りまくったアンサンブル

普段は20名程度で７～８曲のアンサンブルをこなしていたが、今年は12名で同数の曲をこなしたのだから、ひとり当りのノルマが大きい。アッという間に出来上ってスタッフ一同を驚かせた曲もあれば、なかなか出来上がらず、コンサート本番で漸く上出来になったものもあった。コンサート前日のバーベキューで文章に書けないくらい盛り上がり、そのまま本番突入。前夜はみんな大口開けて笑い転げていたけれど、さすがに本番は緊張。でも数日前の犬の「ワンッ！」の時の照れは何処へやら、「アフリカン・ウェルカム・ピース」の歌は何と朗かな声で歌ったことか。

12時終了予定が延びに延びて12時40分頃終了。お行儀が悪いが昼食は時間の出来た人からかき込み、食べ終ったらすぐ楽器の片付け。午後から合宿に入る合唱団の人達の発声練習を聞きながら、閉講式を行った。

皆それぞれ他の11人のパワーに巻き込み巻き込まれ、その中で楊先生の広大でゆったりとした流れを見、ピッとした緊張感にも触れて、講師、スタッフも含めて全員120％充実した５日間だった。

(by M. Ishii)

今回使用したアンサンブルは次のとおり。

- パーカッション・シークエンス（６人）
- トッカータ（６人）
- スイート　フォア　パーカッション（４人）
- からたちの花（４人）
- ティンピアナ（２人）
- ア・タイム　フォア　ジャズ（８人）
- アフリカン　ウェルカム　ピース（６人）
- ティワナ　サンバ（８人）

―参加者の感想文―

毎日が、とても早く過ぎてしまった５日間でした。皆とてもの**り**の良い人だちばかりで、ほんとに楽しかった。

有賀先生にはじめてお会いしたので、はじめはどんなことするのかなーとちょっぴり不安だったんです。でも先生のお話を聞いて、その考え方には私も共感するものがありました。私は大学で打楽器の勉強をしていますが、今まで、なんかこう、とっても大切なことなんだけどずっと気付かないで過ごしてきた気がします。自分はまだまだ未熟だなーとつくづく思いました。みんなが（芸大の受験生の人が多かったので）とてもがんばっているのを見て、私が今大学でのほほーんとしているのがはずかしく思いました。とにかく、今まで私は打楽器アンサンブルをほっとんどしたことがなかったので、アンサンブルがたくさんできてほんとに楽しかったのです。修了証書をいただいた時はもろけんうれしかったです。

有賀先生は、根が素直な方なんだなぁと思いました。

太極拳も、気とか呼吸がとても大事で、打楽器と同じだと思いました。合気道とかやってみたいと思っています。

とにかく、このキャンプで学んだものはとてもたくさんありました。それを、これからの生活の中で生かしていきたいと思います。キャンプに参加して本当に良かったです。

すばいぼうは最高でした。

JPCのみなさん、有賀先生、そして、参加したみんな、ありがとうございました。

（塚田由美子19歳）

Looking

未来の芸術家たち

—「こどもの城」でのリズム教室—

「こどもの城」は、新しい時代に即したこどもの文化と福祉のために昭和60年、厚生省によって建設された総合施設。色々ある施設の中に、音楽事業部という部門がある。ここには音楽講座やクラブがあって、3才の幼児から大人まで参加することが出来る。内容はリトミック、リズム・ムービング、合唱、パーカッション・アンサンブル、ガムラン、三味線、シンセサイザー、金管バンド等ととても多彩。ズラリと並んだ講座の中で目をひいたのが「リズム・ムービング」という講座。3才から6才程度の子供を対象としている。何だか面白そうなので見学に行った。

「リズム・ムービング」とは、この講座の指導者である柳沼輝子先生（武蔵野音楽大学教授、他）が独自に考案したもので、心の動きを、音やリズムや体の動きを通して表現することを目指している。

とにかく教室を覗いてみる。4才～7才くらいの子供が10人程床に座り込んで何かを描いている。何をしているのかと思ったら2人の先生（柳沼先生とアシスタントの米原先生）がそれぞれドラとトライアングルを交互に叩いていて、2つの楽器の音を聞いてそのイメージを子供たちがクレヨンで画用紙に描いているのだった。次に、柳沼先生が「2つの楽器（ドラとトライアングル）を鳴らしまあす。低い音だと思ったら座って高い音だと思ったら立ってくださあい。」と言うとみんな目を閉じてうずくまる。ドラが鳴ると男の子だけが全員立ち上がる。トライアングルが鳴ると女の子だけが立ち上がった。何度やっても同じ。子供たちは真剣で大人たちは面白がる。けれど柳沼先生は「はい、良いですよー。」とだけ言って次のレッスンに進んでしまう。彼らが感じたことを大切にして型にはめてしまわない。

後半は、先生たちが叩く太鼓を聞きながら子供たちが自由に動きまわる。太鼓は大きくなったり小さくなったり、速かったり遅かったり…。みんな教室中駆け回ったり、跳び回ったり、中には寝ころがってる子もいたりする。皆大騒ぎだ。

最後は真面目に「春の小川」を合奏して終了。

「リズム・ムービング」の講座を修了後、子供が希望すれば次の段階「パーカッション・アンサンブル」の講座に進む。この講座は「リズム・ムービング」に比べればずっと堅く、基礎打ちの練習を交えながらアンサンブル曲を仕上げてゆく。7歳くらいから高校生までと広い年齢層だ。「まだ未完成だけど。」と言って聞かせてくれた『MAU MAU SUITE』で小さな女の子が台に乗って大きなマリンバをバンバン弾いていたのが印象的だった。みんな伸び伸びととても楽しそうに演奏している。

このクラスは年に一度合宿も行っていて先生と子供たちの親睦をより一層深めている。

どちらの講座も決して押しつけた指導をせず、子供たちの自然な感性を活かしているのが嬉しい。「リズム・ムービング」のクラスでは、動きまわっている子供たちに「体が先ですよー！」と柳沼先生の声が飛ぶ。音を聞いて体を動かすより、次に出てくる音の気配を感じながら動いてみると体がとてもなめらかに動くのがわかる。何だかストーリー性のある舞踊を見ているようでとても面白い。先生達は表情まで豊かだ。

打楽器というものは音が簡単に出る反面、感情をあれこれ表現するのは非常に難しい楽器だと思う。小さい頃からこの楽器に何気なく触れながら感性を育て、音楽性を養っていけるこの講座により多くの子供たちが触れ、自分の音楽を創り出してくれたら、都会からどんどん忘れ去られている〝人間らしさ〟を取り戻してくれるかな、などと考える。（by M. Ishii）

アラン・ドーソン セッション&クリニック

—6月21日、プレイス24にて—

司会:イノマタタケシ、通訳:斉藤純

バークリー音楽院の名教授、トニー・ウィリアムス、ハービー・メイスン、スティーヴ・スミス、ヴィニー・カリウタらの育ての親、又自らもオスカー・ピータソン、デイヴ・ブルーベック等の共演でも知られるミュージシャンズミュージシャン、アラン・ドーソンのトリオによるセッションとクリニックが開かれた。司会進行にイノマタタケシ氏、通訳として斉藤純氏も同席された。参加された受講者は約220人と立見も出るほどの盛況振り。オープニングは、アラン・ドーソンのピアノトリオでのセッションからスタート。スタンダードを3曲ほど演奏していよいよクリニックが始まった。

この日クリニック参加者の感心は、現在活躍中の数多くの有名なドラマーを輩出したアラン・ドーソンがどの様な教え方をするのだろうかという点であると思う。

この日のクリニックの内容をまとめると次の5つに大まかにわけられた。

①曲の構成とメロディーについて。
②変拍子について。
③ブラシワークについて。
④ルーディメンツについて。
⑤質議応答。

①曲の構成とメロディーについて

この中でアラン・ドーソンはメロディーラインを重点に置いている。曲の中のフレーズ等に合わせドラミングにもメロディーをつける事。フィルなどによって音楽の流れを止めない様にする事等をアピールしていた。実際、彼は〝チュニジアの夜〟を自分でメロディーを口ずさみながらデモ演を行った。

②変拍子について

彼は変拍子などのドラミングに関してパラディドル、ダブルパラディドルなどをうまく応用して何通りものリズムパターンを作り上げていく。この日も一組の同じ手順のパラディドルでいろいろなパターンを聞かせてくれた。

③ブラシワークについて

ブラシに関してアランドーソンは、若いドラマーにもっと注目してほしいと言っていた。ブラシはバラードなどで小さな音をだす為の手段の他に、音を伸ばす為の奏法でもある事に注目してほしいと語っていた。デモ演ではスローテンポからハイテンポに至るブラシさばきをひろうしてくれた。この職人芸とも言えるブラシサウンドには会場が思わずし〜んと静まりかえった程だった。

④ルーディメンツについて

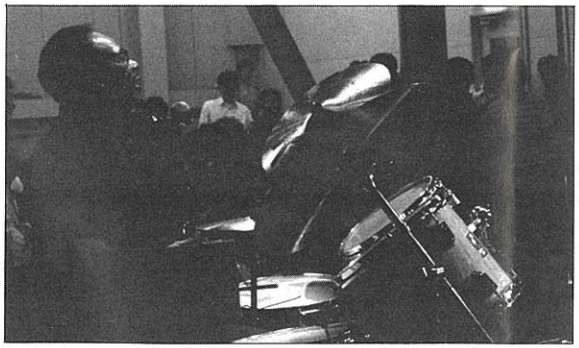
何故ルーディメンツをやるのかという事に関してアラン・ドーソンは、手をよく動かす為の練習といろんなフレーズを作り出すためのアイデアの応用の為と言っていた。実際彼は一般的な26通りの物も含め彼自身70種類ものルーディメントを持っていて当日は半分の35種類ぐらいをひろうしてくれた。ここで注目したいのがこの日彼は全てブラシでプレイした事。スティックに比べてほとんどバウンドのないブラシで完ぺきに粒立ちのそろった音を出していた。ブラシであそこまでできる人は、ごく数えるぐらいの人だろう。

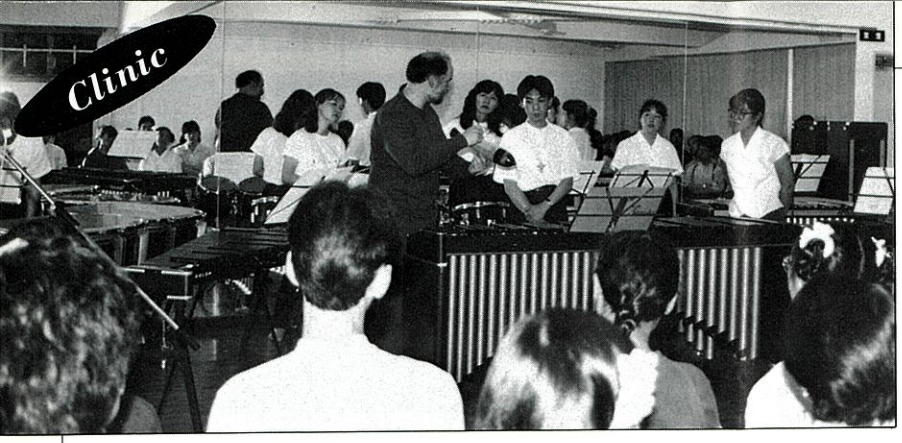
⑤質問について

Q：ジャズを演奏する上での心構えとは？
A：全体の音を聞くこと。
Q：チューニングはどの様にしているか？
A：バスドラムは丸いあたたかいサウンド。タム類はボトムのヘッドを張っておいてトップで音程をつける。ドーソン自身は比較的高めのチューニング。
Q：バッキングでの注意する事は？
A：さっきも言ったが全体の音を聞く事。それと曲の構成、フォームを知る事。そしてダイナミックスのつけ方に注意する事。
Q：マチッドグリップとレギュラーグリップはどちらが良いか？
A：どちらでも好きな方を選べばよい。できる事なら両方できた方がベスト。尚大きなセットでの場合はマッチドグリップの方が有利。

こうしてみるとアラン・ドーソンは常に曲の構成やメロディーラインを常に意識しながらドラミングを組み立てているのがよくわかる。このあたりが名教授と言われる秘密かも知れない。とにもかくにも過去行われたドラムクリニックとはひと味もふた味も違ったアラン・ドーソンという人がとてもスケールの大きい人だと感じさせられるクリニックでした。

(by T. Ichii)





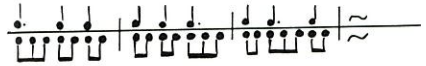
♪♪ ミシガン パーカッション グループ 来日

—Part.1—マイケル・ユダウ・パーカッション・クリニック(6月19日:プレイス24)

ユダウ氏のクリニックは、パーカッション・アンサンブルを中心にしたクリニックで、2つのアンサンブル・グループをモデルにして展開されていった。

初めに、盛岡のパーカッション・グループ『ファルサ』がS.ライヒ作曲の『木片の音楽』とM.ピーターの『ア・ラ・サンバ』を演奏。続いて有志グループ『SENDA』がM.コルグラスの『スリー・プラザーズ』を演奏。ユダウ氏はそれぞれの曲の後に、マレットの選び方、セッティングの方法、楽器の奏法等を交えながら、体をリラックスさせることをベースに、歌うように、そして踊るように演奏することを教え、最後にダイナミックスをはっきりつけて曲を完成させていく。「リラックスが大切です。」と何度も繰り返していた。

アンサンブルのクリニックが終ると、ホワイト・ボードに次のような音符を書き並べ、声に出してカウントしたり上の音符のカウントに両手両足を使ってみたり、テンポをだんだん速くしたりして、変拍子や唐突なアクセントに慣れる練習をした。



次にこのパターンを応用してユダウ氏が日本でこの日のクリニックのために作曲してくれた『Dance for JPC』を参加者から4人選んで初見演奏。リズムの組み合わせなので、どの楽器を使っても良いし、好きなところにロールを入れたりして、イメージを拡大させるための練習曲といったところ。

予定の2時間をはるかにオーバーして3時間にも及ぶクリニックだったが、ユダウ氏のとても親切な指導と解り易い英語，片言の日本語でアッという間に時間が過ぎてしまった。

クリニック後半で使用したリズム・パターンの組み合わせによるエチュード.ミシガン・パーカッション・アンサンブルの演奏が収められたレコードをJPCで販売しているのでご参考にどうぞ。 (by M. Ishii)

エチュード:THE CONTEMPORARY RERCUSSIONIST ¥1920

レコード:4chamber Percussion Works ¥2500

—Part.2—マイケル・ユダウ氏にインタヴュー
～アメリカのパーカッション・アンサンブル事情を聞く～

Q：簡単な略歴を教えて下さい。

A：1949年3月10日生まれです。インターラーケン・アーツ・アカデミー（高校）からイリノイ大学に入学。高校の時はアラン・エーベルについてたんだ。ツトム・ヤマシタとも一緒に勉強したよ。そう、アラン・エーベルには8年間いろいろ教えてもらった。とても勉強になる人だね。大学のマスターとドクターのコースを修了してから、ポーランドやイギリスに住んでツアーや作曲活動をした。ナンシー（ユダウ氏の奥様）と一緒に〝Dance&Percussion〟でツアーをしたりね。『Blackearth Percussion Group』も結成した。このグループは今はもう無いけどね。あちこちツアーしてアメリカに帰り、ミシガン大学で教えることになったんだ。他に、もう20年にもなるけど毎年夏になるとサンタ・フェ・オペラも演ってるよ。

Q：ずいぶん色んなことをして来たんですね。今回の来日で、東京周辺の音楽大学でクリニックやレクチャーを何回も行ってましたが、ミシガン大学でのレッスンの状況など聞かせてもらえますか？

Q：レッスンは週に一度一時間のプライベートレッスン。マスタークラスの学生はオケスタを中心にしてる。レッスンとは別に週に3回アンサンブルのミーティングもする。コンサートは学内外合わせると年に10回くらいになるね。P.A.Sに参加したり、今年はデトロイトのリンカーン・センターで日本音楽集団と共演もした。(今回の来日でも演奏した『楽市七座』のこと)

Q：とても意欲的な活動状況ですね。日本でここまで活動する学校は無いと思いますよ。そうなると、卒業後の学生の活躍も気になるところですけど。

A：東京学芸大でのレクチャーの時も同じ質問をされたよ。

アメリカは根本的に音大の数が違う。日本は20校くらい。アメリカは2000校くらいあるんだ。(！)卒業生はおそらく日本以上に働くことにシビアになってる。ところがまだまだ歴史が浅くて文化が社会の一部になり切ってないところがあるんだ。野球や娯楽にはお金を使っても芸術に対してはまだちょっとね。芸術がアメリカ社会で重要な位置になるには500年はかかってしまう。

私はパーカッションのプレイだけじゃなく、音楽に対するクリエイティヴな考え方も教えるようにしてるんだ。そうすると、ある学生はオーケストラに入り、ある学生はロック・バンドを作ったりする。教師になる人もいるけれど、殆んどの学生は小さな町にスタジオを作ったり、音楽療法の分野に入ったりしてパーカッションを続けてるね。けれど音楽とは無関係の方向に進む人も沢山いるよ。でも良いんだ。音楽が彼らの生活の一部になるだろうしそれが彼らの救いになるってことを信じてるから。

Q：では、パーカッション・アンサンブルの活動状況はどうですか。

A：グループは大学では沢山あるけど、プロでは殆んど無いね。

ネクサスのようなバンドも無いし、ストラスブールやクロマータのように国の援助があるバンドも無いし。世間の人たちが、パーカッション・アンサンブルってものに興味が無いみたいだね、まだ。作曲家ですらそうだったけれど、この頃漸く打楽器に興味を持つ作曲家が多くなって来ているから、これから先は明るいね。作曲家サイドに立たせてもらうと、私はパーカッションとシアターを合わせたような曲を作りたい。オペラの伴奏がオーケストラではなくパーカッションだったりして。きっとすごく面白いコンビネーションが生まれると思うけど。

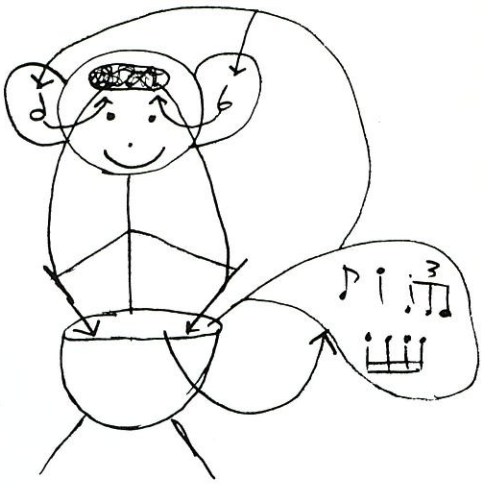
Q：なるほど。日本のように伝統的な文化が無い反面、というか、無いからどんどん新しい事にチャレンジできるというわけですね。では最後に、プロ、アマを問わず、日本のパーカッショニストへ何かメッセージを…。

A：うーん。音楽を極めたい人に…。

先ず、音をよく聞くこと。いつも他の人がどういうことをしているのか注意深く聞いて考えること。だって打楽器奏者は99.9%他の音楽家達と演奏するんだからね。彼らをどうやってサポートすべきか、楽器の上でどうコミュニケーションを取れば良いのかとか、スネアドラムやマリンバで、フルートと同じクオリティのメロディーを感じたり弾いたりできる繊細な音楽性が必要だね。だから私はいつも周りに気をつけているし、耳なんてダンボみたいに大きくなってるよ(笑)。

それからこの絵をスタジオに貼って皆が見られるようにしておく。この意味はね、「We think about the sound which we make. We listen the sound. We think about what sound we were made.」Constant feedback system！

(by A. Komaki. edit. M. Ishii)



=ストラスブール打楽器合奏団クリニック=

去る7月23日(土)、プレイス24に於いて、世界的に有名なあの、ストラスブール打楽器合奏団のクリニックとメンバーを囲んでのレセプションが行われた。

オープニングに、カベラック作曲「8つのインヴェンション」の最終楽章を演奏した後、合奏団の生立ちをメンバー唯一の日本人である中村さんが話してくれた。今回来日したメンバーはまだ新しく組んだばかりだそうで、一時活動休止状態になっていたグループのこれからの活躍が楽しみだ。

次に、フランスのマーチングスタイル（スネアドラム）を演奏したが、アメリカン・スタイルや、スコティッシュとはまた違った面白いプレイだった。大きな特徴は、基本になる音符と音符（例えば♩♩♩♩）の間に細かい音符が入ることだ。始めは1つ（つまり♫♫♫♫）でだんだん増えていく。スネアの教則本「コレクション・ドラムソロ」のP.16のスリーキャンプスに似ている。最後にこんな感じになるわけだ。

そして次に「8つのインヴェンション」を参加者から4人程選んで、ストラスブールのメンバー達と合奏。貴重な体験。

最後は、クセナキス作曲「プレアデス」の最終楽章を演奏して終了。

質問コーナーでは逆にメンバーから参加者に質問が出たりして長時間にわたってフランス語と日本語が飛び交っていた。

クリニック終了後のレセプションではN響の岡田知之先生や日本芸術大学の今泉久先生等の先生方も加わり、ビールやジュースのグラス片手にビンゴゲームに盛上って宴を終えた。

(by M. Ishii)

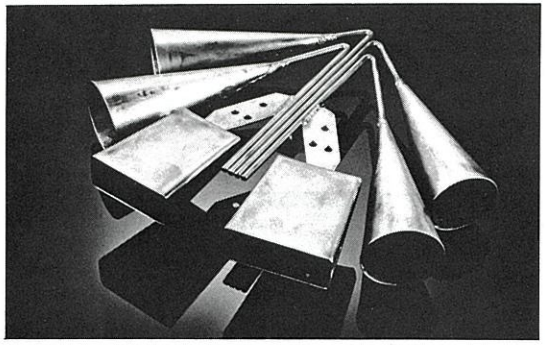
New!

→→新入荷 新製品ご紹介→→

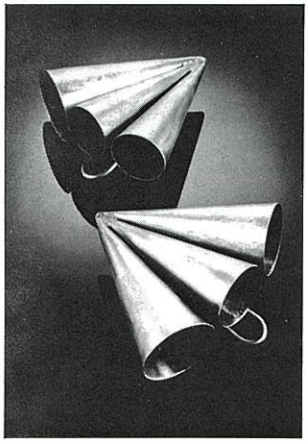
1. PETE ENGELHART (USA)

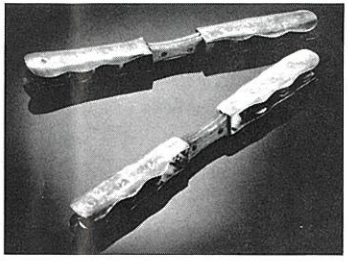
あらためてご紹介する迄もなく会員の皆さんはよーくご存知ですよネ、ピート・エンゲルハートのメタル・パーカッション。

さてこの度新しい仲間が加わりました。先ずは『スクエア・コメット・ベル』。今迄のコメット・ベルにサルサ・カウベルの様な形態をしたベルが２つついて「スペース・ファンタジーの世界へかっ飛んで行けっ！」ってな見事なフォルムにまとめられている。ちゃんとC-Cにピッチもとってある。このスグレモノが何と¥47,000。シンバルスタンドにも装着可能。これは正に創造的感性豊かなこれからのパーカッショニストに必携のニュー・アイテムだ。



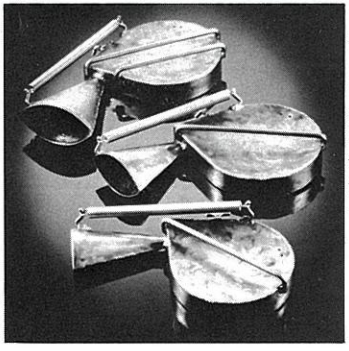
そして、考えそうで考えつかなかった得も言われぬこの姿。名付けて『ブロッサム・ベル』。松田聖子の『チェリー・ブロッサム』じゃないよ（ああっ古かったか…）。１つ１つのベルはP.E.（ピート・エンゲルハートのことだ）特有の澄んだサスティーンの豊かな音がする。勿論これを１つずつ撥で打っても可。エンゲルハートさんは他にこれを両手に１つずつ持って打ち合わせると良いと言っていらっしゃる。これもC-Cのピッチに調律がしてあり、打ち合わせてみると何と、和音になる。うーむ。ただものではない。 ¥15,400





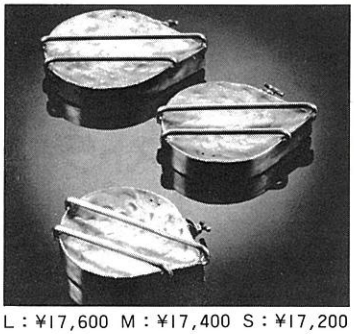
それから『ブロック・シグナル・シェイカー』。ジングルがヘソを曲げた様な代物が中に入っていてカシャ、カシャ、カシャ、カシャと音を出す。シェイカーとしても使えるし、ちょっと変ったタンバリンの様にも使えます。

ワイド：¥48,800　ナロウ：¥48,600



次に『ザ・スネイル』。従来のサテライト・ドラムにレコレコを組み合わせたもの。スプリングの先にベルがついていて、手にした瞬間思わず１人サンバの世界へと誘われてしまう。かの仙波清彦師匠も何を隠そうその１人であった（本当ダヨ）。

L ：¥31,400
M ：¥31,200
S ：¥30,800



さて、ドンジリに控えしは、その名も『レンズ・ドラム』。以前からあった「サテライト・ドラム」や「シェイド・ドラム」のサウンド・バーを２本にしただけじゃないかと思っちゃあいけない。このバー、ちゃんと３度から４度にチューニングしてある。シンバルスタンドにも取り付けられるので、ドラム・セットの新たなサウンド・エフェクトにも使える。サイズは３種類。

L：¥17,600　M：¥17,400　S：¥17,200

お次は「何でこれがカスタネットなんだ」という頭の硬い御仁もござるのではないかと思う『カスタネット』。この進化した蠅の様な姿からグワシャ、ガシャ、ガシャという破壊音がする。ほら、いつかシンセサイザーに向かって作ろうと思って上手くいかなかった音のイメージにこういうのが１つなかった？

L：¥19,400　S：¥14,400

さて、ピート・エンゲルハートは新製品６種をご紹介するだけじゃあない。血と汗と涙の企業努力によって９月から目出たく値下げの運びと相成りました。お馴染のリボン・クラッシャーが9,400円。かなり身近になったので、これを機会に皆でP.E.の奥深い森へ分け入ろうではないか！

2. DRUM WORKSHOP(USA)

あのスティーヴ・スミスが、あのジェフ・ポーカロが、あのチェスター・トンプソンが、あのトミー・リーが、あのオマー・ハキムが、あのジェリー・ブラウンが、あのヴィニー・カリウタが（しつこいな…）あの山木秀夫もあのそうる透も、本当に多くのドラマーが使っているDW（ドラム・ワークショップ）のバス・ドラム・ペダル。皆さんよくご存知ですね。

今迄日本に正式輸入元が無く、価格も安定していませんでした。でも、これ程のペダルをそんな可哀想な状態にしておいてはいけない。チェーン・ドライブ・スポルケットタイプの元祖、リモート・ハット、ツイン・ペダル、ペダル・プレートの元祖、エレクトリック・トリガーペダルの元祖、これ程のメーカーだもの。

おまかせください。コマキ楽器でこの度縁あって正式に取り扱うことになりました。価格も下記のとおりお求め易くなりました。パーツも揃ってるし近々新製品も入荷の予定。何かって？　ハイハイ、エレクトリック・トリガーペダルのニュー・アイテムですよ。CX-5000ターボにトリガーペダルのついたもの。普通にバス・ドラムを叩きながら同時にシンセドラムの音源も鳴らせるすごいヤツ。すでにトミー・アルドリッチや山木秀夫が使ってる。おまけにもうひとつ教えちゃおう。スティーヴ・ガッドはグレッチのナイロン・ストラップのペダルを使っています。グレッチのペダルはDW製。CX-500Nがそれです。(DWのペダルって本当にすごいでしょ。)

モデル	仕　様	定　価
5000T	SINGLE, TURBO	40,000
5000TN	SAME BUT NYLON STRAP	40,000
5000CX	SINGLE	29,800
5000N	DO BUT NYLON STRAP	29,600
5002	DOUBLE	65,000
5002+2	DO, 2UNIVERSAL ASSY	75,000
5002L	LEFT HANDED SET UP	65,000
5002DC	DOUBLE, 2HOOP CLAMPS	58,500
5000TE	ELECTRIC PEDAL	80,000
EP-N	TRIGGER PEDAL	76,000
EP-1	DO	76,000
EP-F	DO, COMPACT	43,500
EP-R	TRIGGER PLATE	35,500
5002TEC	COMPLETE WITH 2PEDALS	164,000
5500T	H.H. STAND	40,000
5500	H.H. STAND	36,000
5502R	REMOTE H.H. STAND	72,000
5502LB	H.H. WITH NO LEGS	64,000

3. SONOR (W. Germany)

格調高き愛すべきソナーよりニュー・モデル登場。その名も〝ハイライト〟。ソナー史100余年の中で作られていた〝古き良きもの〟を現代にリバイバルさせたもので、彼らは「偉大なるリバイバル」と誇らし気に言っている。

〝古き良き〟頃の物は得てして眉をひそめたくなる何かがつきモノ。何に寄らずそうです。「それがいいんだっ」って人は良いけれど、それじゃ単なる物集め。一見して「う〜ん、懐しいねぇ。」と思わせて中味は充分今風です、というのがソナー・ハイライト。

特徴はソナーが初めて取り組んだメイプル素材の使用。7.5㎜、9プライのメイプル・シェルに〝古き良き〟チューブ・ラグを採用。なんとスナップ・ロック付だ。

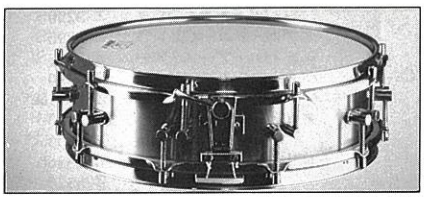
憎いのは、シェルとメタル・パーツが接する部分全てにゴムのカバーを施しノイズ対策万全。

さてさて気になるサウンドはと言うと、メイプル特有の立ち上りの良さと力強さがモノを言う。しかしそれだけだと〝派手〟だけで終ってしまうコワサがあるが、流石（会員の人なら知らなくても読めますネ、さすがです）ソナー。他の追随を許さない合板技術とエッジ処理により、高域、中域、低域の各音域成分がバランス良く前に出てくるからううむっとなってしまう。

メタル・パーツにコパープレートを施したより格調高いハイライト・エクスクルーシヴもある（カラーでお見せできないのが残念！）。

カラー・フィニッシュはブラック、クリームラッカー、レッドメイプルの他に新登場ブラック・ダイアモンド。その名のとおり黒いシェルにキラキラキラキラ輝くものが散りばめられていて思わず笑ってしまうくらい豪華な雰囲気を醸し出している。(ハイライト・エクスクルーシヴ・シリーズはブラックとブラック・ダイアモンド仕上げのみ)

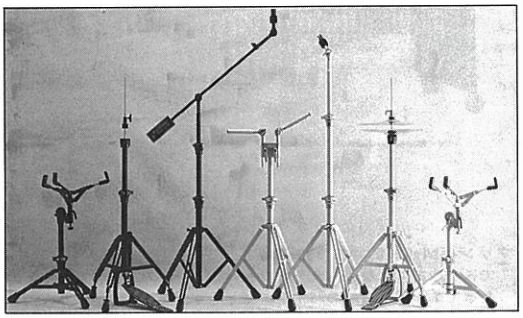
豪華ついでに、ブロンズ製のピッコロ・スネアも出ました！以前ご紹介した8〝深胴スネアHLD-590のピッコロ版。素材を活かした柔らかい感じの音が売り物。



HLD-593¥234,000

ソナー社発、今回最後にご紹介するのは、ハード・ウェアの「プロテック」シリーズ。今迄ソナーの製品は「重い！」が特徴でしたが、ついに軽量ハード・ウェアを送り込んで来ました。素材はアルミ。ただ軽いだけじゃあ芸が無い。ワンタッチ・ロック、ワイタッチ・シンバルメイト、ノイズ対策としてタム・ホルダー等のノイズの出そうな箇所にゴムを挿入。さらにラチェット部のキメが細かくなり、微妙なセッティングが可能になった。

スタンド1本の重さに泣いてたヒト、良かったね。



SONOR　新製品価格

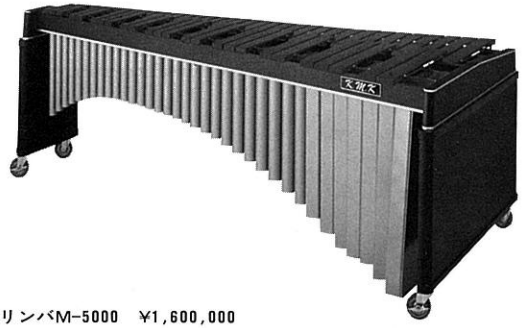
			HILITE	
HILITE EXCLUSIVE				
スネア・ドラム	EHD-500	¥179,000	HD-500	¥143,000
	EHD-700	¥182,000	HD-700	¥146,000
バス・ドラム	EHG-18	¥243,000	HG-18	¥195,000
	EHG-20	¥254,000	HG-20	¥204,000
	EHG-22	¥279,000	HG-22	¥223,000
	EHG-24	¥295,000	HG-24	¥235,000
タム・タム	EHT-8	¥91,000	HT-8	¥73,000
	EHT-10	¥95,000	HT-10	¥76,000
	EHT-12	¥100,000	HT-12	¥80,000
	EHT-13	¥110,000	HT-13	¥88,000
	EHT-14	¥123,000	HT-14	¥98,000
	EHT-15	¥131,000	HT-15	¥10,500
フロアータム	EHFT-14	¥148,000	HFT-14	¥119,000
	EHFT-15	¥156,000	HFT-15	¥125,000
	EHFT-16	¥162,000	HFT-16	¥130,000
	EHFT-18	¥178,000	HFT-18	¥142,000

HILITE EXCLUSIVE	スネア・ドラム・スタンド	EZ-8590*	¥70,000
	ハイ・ハット・スタンド	EZ-8494*	¥79,000
	シンバル・スタンド	EZ-8290*	¥61,000
	ダブル・タム・スタンド	EZ-8295*	¥85,000
	シンバル・ブーム・アーム	EZ-8293*	¥21,000
PROTEC BLACK	スネア・ドラム・スタンド	Z-9590B	¥64,000
	バス・ドラム・ペダル	Z-5370B	¥47,000
	ハイ・ハット・スタンド	Z-9492B	¥72,000
	シンバル・スタンド	Z-9290B	¥55,000
	ダブル・タム・スタンド	Z-9295B	¥77,000
	シンバル・ブーム・アーム	Z-9293B	¥20,000
PROTEC SILVER	スネア・ドラム・スタンド	Z-9590S	¥58,000
	ハイ・ハット・スタンド	Z-9490S	¥60,000
		Z-9494S	¥66,000
	シンバル・スタンド	Z-9290S	¥47,000
	ダブル・タム・スタンド	Z-9295S	¥72,000
	シンバル・ブーム・アーム	Z-9293S	¥19,000
PROTEC	バス・ドラム・ペダル	Z-9390	¥35,000
	シングル・タム・スタンド	Z-5511bk*	¥18,000
	ダブル・タム・ホルダー	Z-5533b	¥46,000
		Z-5533bk*	¥50,000
	トリプル・タム・ホルダー	Z-5536b	¥62,000
		Z-5536bk*	¥69,000
	増設ダブル・タム・ホルダー	Z-5538b	¥53,000
		Z-5538bk*	¥58,000

＊＝コパープレート　B＝ブラック　S＝シルバー(艶消し)

4. KMKシロフォン・マリンバ(5oct.)(JAPAN)

ついに登場!!　ではない。ついに登場したのは写真だ。覚えている方も多いでしょう。昨年末のキーボード・フェアで紹介され、現物を見た人は来店した人だけという、マボロシのシロフォンとマリンバ。(そーでもないか)いろいろと事情があって皆様になかなかご紹介できなくてすみませんでした。



マリンバM-5000　¥1,600,000
できそうでできなかった5オクターヴマリンバ。充実した低音の響が見事です。派生音部のパイプデザインがレトロです。
C～C　5オクターヴ(A＝442)
音板：最高級ホンジュラス産ローズウッド

シロフォンX-350　¥190,000
シロフォンらしい明るく乾いた音色が特徴。
F～C　3½オクターヴ(A＝442)
音板：ホンジュラス産ローズウッド

5. SCHLAGWERK(W.Germany)

たかがウッド・ブロック、されどウッド・ブロック…とウッド・ブロックを探し求めている人は多いハズ。アメリカのメーカーのアジア進出に伴う品質の低下はもう誰でも認めざるを得ないものがあります。その犠牲者のひとつ、ウッド・ブロック。最近はパーカッション・アンサンブルの浸透等でウッド・ブロックを使う機会は少なくないようです。木塊求めて幾千里…。とうとう発見。それはスリット・ドラムで有名な西ドイツはシュラグヴェルク社にあったんであります。昔、秘かに流行したキャンバー社のウッド・ブロックに似ています。製法は張り合わせですが、とてもしっかりしていて肉も厚く、ちょっとやそっとじゃ剥れたり割れたりしません。(でも思いっきりメチャンコ叩けば、そりゃ割れますヨ念のため) サイズは大、中、小と3サイズ。少々お高うございますが、手応え充分。

スモール　(22cm×8cm×6cm)　¥7,400
ミディアム(25cm×8cm×6cm)　¥7,800
ラージ　(28cm×8cm×6cm)　¥8,300

6. VIC FIRTH(USA)

今や日本中知らない人はいないくらい有名なヴィック・ファース。よく「ヴィック・ファーストのスティックでぇ…。」なんて人がいるけれど気を付けようね。ところで、ヴィック・ファースから久々にスネア・スティックのニューモデルとティンバル・スティックが発売された。先ず、スネア・スティックは、「ピーター・アスキンモデル」。材質はアメリカン・ヒッコリー。日本人の手の大きさに丁度良い太さ(13.5㎜φ、406㎜L)、テーパーがチップぎりぎりのところにかかっているのでバランスが前方にかかり、小さいチップでも思った以上のパワーが出る。JAZZ屋さんはもとより、クラシック畑の人にもおススメ。(1800円)

ティンバル・スティックは「アレックス・アクーニャモデル」。材質はアメリカン・ヒッコリー。太さは少し細目の11㎜だが長さが普通のスティックより少し長い408㎜。(800円)

秋のコンサートご案内

●岡田知之打楽器合奏団第15回演奏会

10月9日(日)　6：30PM～
abc会館ホール
¥3,000(全席自由)
JPC会員：¥2,700
―プログラム―
インター　ウェーブ／松下　功
1988-10-09岡田知之合奏団のための／三枝成章　他

●菅原淳パーカッションリサイタル

10月15日(土)　7：00PM～
サントリー小ホール
¥3,500(全席自由)
JPC会員：¥3,000
―プログラム―
サッファ／I.クセナキス
子守歌／高橋悠治　他

●国立音楽大学打楽器アンサンブル第19回定期演奏会

10月22日(土)　4：00PM～
国立音楽大学講堂大ホール
¥700
―プログラム―
Ku-Ka-Ilimoku／C.ロウズ
Six Marimbas／S.ライヒ　他

●ザ・コンサート／今夜はマリンバ気分！

11月2日(水)　6：30PM～
札幌市北区サンプラザホール
¥1,500
―プログラム―
2台のマリンバのための嬉遊曲／横山菁児
スカラムーシュ／D.ミヨー他
お問い合わせ＝札幌マリンバ協会(011-661-1049)

●ジョン・ハッセル&ファラフィナコンサート

10月15日(土)　7：00PM～
10月16日(日)　3：00PM～、7：00PM～
ラフォーレミュージアム原宿
10月22日(土)　7：00PM～
10月23日(日)　3：00PM～、7：00PM～
ラフォーレミュージアム赤坂
前売¥4,300／当日¥4,700(全席自由)
お問い合わせ＝ツルモトルーム(03-406-1351)

Play Spot

JPCオススメ、太鼓が聞ける店

JAZZ HOUSE PigaPiga

一歩店に入ると、動物の剝製や毛皮たちが迎えてくれる。片隅には大小様々なトーキング・ドラムも積み上げられていて、ドラムセットやコンガと肩を並べてる。

そうです、感の良い方はもうおわかりですネ、アフロ・ミュージックからジャズ・ドラム、何でもこなす石川晶さんのお店です。息子さんも一緒で、親子でプレイすることもあります。

店内は落ち着いたムードで、ロー・ソファがゆったりと置いてあってライブを聞くのに丁度いい。ノッてくるとお客さんは皆、通路で押し合いへし合いしながら踊りまくっちゃう。いつも和やかな明るい雰囲気のある店で石川ファミリーの暖かさが伝わってきます。

さて、9月に訪れた時のゲストは、ザイールから来日したロック(?)グループ。〝コンピューター〟なんて名前のベーシストがいたけれど流れる音楽が最高！「ああ、アフリカが見えてくる～！」という感じ。行ったこともないのに見えちゃうんだもんネ。知らず知らずのうちに体が動いておじいちゃんもおばあちゃんもみんな踊りまくってしまう。東京のコンクリートに毒されている面々にはこの石川Worldはまさにオアシスだ。

石川さんにメッセージを乞うと「何ていっても楽しさがでる店だヨ！」とあの優しい笑顔で答えてくれた。ホント、最高に楽しませていただきました。

〈Piga Piga〉JR山手線恵比寿駅前　マイタウン恵比寿B2
TEL…03-715-3431
OPEN／6：00PM～1：00AM休業／日曜・祭日
チャージ：¥1,500ビール：¥650　ソフトドリンク：¥500
ボトルキープ：¥4,000～

パーカッション・フェスティバル'88

日本打楽器協会主催で毎年開催されているパーカッション・フェスティバルは、今年は千葉県文化会館に於て、6月25日、26日の両日開催された。悪天候や試験と重なり、お客様の入りは今一歩。しかし広いスペースを使っての楽器の展示や2つのホールを利用したコンクール課題曲のクリニックを始めとする各クリニックやコンサートには多くのスタッフ陣が配置され「ああ、皆来れば良かったのに。」と思うほど。特にラテン・パーカッションのクリニックは湧きに湧いた。来年のフェスティバルも楽しみである。

◀JPCだより▶

■KOMAKIリオ・ブランコ浅草サンバ・カーニバル出場!

今年も頑張りました。サンバ・カーニバル！　時は8月27日㈯、前日までの悪天候、当日朝の通り雨に空を見上げてう～むと唸った人間多数。皆の祈りも通じて午後からはピーカンのサンバ日和り。今年はダンサー15名、ホーンセクション12名、子供6名、バツカーダ50名余りの大所帯。衣装も擬ったし、パターンも擬ったし、結果は堂々の努力賞！　……う～ん、やっぱり……クヤシイゾ！　来年はもっともっと頑張るダ！

■'88打楽器価格表無料引換券を同封いたしました。コマキビル各フロアで取扱っておりますのでご持参ください。尚、郵送の場合は、350円切手を同封のうえお申し込みください。

■コマキ音楽センターマリンバ教室生徒募集!

コマキ音楽センターではマリンバ教室を開講中。個人のレベルに合わせたマンツーマンのレッスンに人気があります。

講師：高橋美穂子（武蔵野音大卒）
月謝：6500円　設備費：1000円
入会金：5000円

※詳しくは、03-842-6045コマキ音楽センターへお問い合せください。

■会費納入のお願い

昭和63年分会費未納の方は、同封の振込用紙にて納入ください。行き違いご入金済みの場合はご容赦ください。

■休業のお知らせ

10月23日～24日の両日、社員研修のためコマキビル全館休業いたします。

編集後記

4ヶ月間のご無沙汰です。世の中は歯にものがはさまったような夏からハッキリ秋！　に変りました。可哀想なのは蝉さんです。8月の午後、思い出したように降る雨の合い間を縫ってミンミン、ジージーと鳴いとりましたが、寒いし暗いし、彼らは一週間の命を全うして、「あー良かった」と思いながら死ねたんだろか…。あー心配だ。……

さぶい8月の末に行われたサマーキャンプのパワーは本当に凄まじかったです。ここだから言うけど、初め男性2人は10人の乙女たちのパワーに負けて畏縮してしまい「養老院」なんぞと呼ばれていたのでした。女の子たちは夜中まで部屋で騒ぐこと騒ぐこと…。寝不足なはずなのに次の日のパワーが持つこと持つこと…。とうとう男の子も巻き込まれたけど、深くは入り込めなかったようだ。18歳くらいの彼らがそうなんだから、25歳がいっちゃん若い我々スタッフがついていける筈がない。突風が来て、くるりと回って目を開けたら何も無かった、てな印象。疲れなかったと言ったらウソだけど、すばいぼうな疲れ方でした。

ところで今年の夏、ひとつ寂しいなと思った事があります。ストラスブールのメンバーがクリニックの時に「プレアデス」を演奏しようとした時のこと。この曲は全員タムのピッチを揃えて演奏するようにと作曲者殿の指示があるそうで、いざ始めるゾと会図を出して始めたは良いが、すぐに止めてしまった。何事かと思えばピッチが違うのでやりにくいと言った……。「おや～?」と思ったのは私だけだろーか？　ここだから言っちゃうけどネ、「それでもアンタ達、プロなの!?」とイカる反面、悲しいものがありました。

皆さん、どんなにえらくなっても与えられた物で最高の結果を生み出せるヒトになってくださいね。

—M—

表紙
菅原 淳
（読売日本交響楽団）

昭和63年10月1日発行
発行所　J・P・C事務局
〒一一一 東京都台東区西浅草一―七―一
郵便振替口座　東京九―一五三一一五
電話〇三―八四五―三〇四一（代）
加入者（株）コマキ楽器